

帝国よりも連邦を！

— ミラン・ホジャと小国スロヴァキアの戦略 —

福田 宏 hfukuda@slav.hokudai.ac.jp

<http://hfukuda.cool.ne.jp/>

はじめに — 帝国の狭間の中欧

- ◆ このセッションの位置づけについて：ドイツ・ポーランド・（チェコ）スロヴァキア
- ◆ 非ドイツ人の「中欧 Mitteleuropa/ střední Evropa」 — 1848年革命以来の伝統（？）
- ◆ ホジャ（Milan Hodža, 1878-1944）の「帰還」（EU加盟目前の2002年）

Federation in Central Europe: Reflections and Reminiscences (London, 1942).

1. 中欧認識形成の場としてのハプスブルク帝国

1.1 ホジャの生い立ちと中欧的（大ハンガリー的）ネットワークの形成

- ◆ 帝国の多民族性とアウスグライヒの構造（1867～1918年）
 - ライタ河以西はドイツ人、ライタ河以東（トランスライタニア）はハンガリー人が主導
 - （ハ）1868年民族法：全市民が単一不可分の統一的ハンガリー国民を構成すべき
- ◆ ホジャの遍歴：スロヴァキア、ルーマニア、ハンガリー、（セルビア）
 - マルチン、ショプロン、シビウ、ブダペスト、ハンガリー議会という経路
 - 非ハンガリー人会派の結成（1905年）（スロヴァキア人、ルーマニア人、セルビア人）

1.2 ベルヴェデーレ・サークルと幻に終わった連邦化の試み

- ◆ フェルディナント皇太子との不思議な提携 — ハンガリーという共通敵
 - ハンガリー人を抑えるために（男子）普選を導入せよ
- ◆ ハプスブルク帝国における連邦化案の系譜
 - 1848年革命期における F. パラツキーの連邦化案：非ドイツ人による異議申し立て
 - アウレル・ポポヴィッチ『大オーストリア合衆国』（1906年）
 - 社会主義者による再編論 — O. バウアーと K. レンナー（属地原理と属人原理）

2. 実践の場としての戦間期と第二次世界大戦

2.1 チェコスロヴァキアの誕生と「小協商」のネットワーク

- ◆ ナウマンの「中欧」 vs. マサリクの「新しいヨーロッパ」（ごく簡単に）
- ◆ ハンガリー包囲網の形成 → 小協商（1921年6月成立）
 - ハンガリーの不安定性（民主革命、ソビエト政権の誕生と崩壊、権威主義体制へ）
 - チェコスロヴァキア、ユーゴスラヴィア、ルーマニアの連携 ← 仏の支援

- ◆ 「チェコスロヴァキア主義」というフィクション
 - 「フラス派（中央派）」のホジャ vs. 「自治派」のフリンカ（人民党）
- ◆ ドイツ抜きの中欧協力体制の構築、オーストリアのアンシュルスを阻止

2.2 亡命政権におけるベネシュ元大統領との対決と敗北

- ◆ ミュンヘン会談後（1938年9月）の亡命
 - 亡命政権の正当性を確保することが最初の課題
 - 39年3月のCS解体と同年9月の開戦を経て、10月にCS国民委員会設立
- ◆ ロンドンのチェコ・グループとパリのスロヴァキア・グループ
 - 39年11月、スロヴァキア国民評議会成立。40年6月の仏敗北で無意味に
 - 40年7月、イギリスはCS暫定政府を承認、ホジャは参加するもの米へ
- ◆ チェコスロヴァキアとポーランドの国家連合構想
 - ベネシュとシコルスキ P 亡命政府首相との接触は39年秋頃から
 - 独ソ戦勃発後、ソ連が懸念を表明。ベネシュはソ連との関係を優先

3. 中欧論の理論的基礎 — 保守的農民的民主主義

3.1 6割を超える農業人口の多さと中欧各国の農業党

- ◆ 要（かなめ）としてのチェコスロヴァキア農業党（シュヴェフラ党首とホジャ）
 - ピェトカ体制 — 国民民主党、人民党、農業党、国民社会党、社会民主党（当初）
- ◆ 他国の脱落（？） — 「先駆者」スタンボリースキ（ブルガリア）の失敗
 - ハンガリー：農業党が権威主義的政権に取り込まれる
 - ポーランド：旧領土別に分裂した農業党。ヴィトスは権威主義政権を防げず
 - ルーマニア：1928年に政権を握ったマニウらの農業党は大恐慌に遭遇

3.2 緑色インターナショナルの可能性（vs. コミンテルン）

- ◆ 資本主義と社会主義、西と東の架橋（？）
 - プラハの国際農業ビューロー：最盛期の1929年には17の農業党が加盟
- ◆ 「遺書」としての中欧連邦構想（1942年）
 - 汎ヨーロッパ運動と敵対するのではなく、その前段階として中欧を位置づけ
 - スロヴァキアとチェコ、ポーランド、そして8カ国の連邦（1億1千万人）へ
 塊・ハンガリー・ルーマニア・ユーゴスラヴィア・ブルガリア・ギリシア
 - 大統領・政府・議会（各国政府による間接選挙）、共通通貨・財政・外交・通商等

おわりに

- ◆ 1989年以降のV4（ヴィシエグラード協定）の試み — EUにおける存在感確保
- ◆ バルカンに対する重点外交 — 「東」に対する優位性の確保
- ◆ 存在理由の消滅？ — ノスタルジー、あるいは残像としての中欧
- ◆ 比較帝国論への貢献 — コラボレーター、あるいは脱帝国推進者としてのホジャ？

参考文献一覧（邦語を中心に）

- ロビン・オーキー、山之内克子・秋山晋吾監訳『ハプスブルク君主国 1765-1918：マリア・テレジアから第一次世界大戦まで』NTT 出版、2010 年
- 篠原琢「地域概念の構築性：中央ヨーロッパ論の構造」家田修編『開かれた地域研究へ：中域圏と地球化』（講座スラブ・ユーラシア学 1）講談社、2008 年、pp.119-141.
- 中田瑞穂「議会制民主主義への突破と固定化：経路・課題・結果」『名古屋大学法政論集』（1）226 号、pp.1-45、（2）228 号、pp.157-207、2008 年
- 林忠行「戦略としての地域」家田編『開かれた地域研究へ』（既出）pp.91-118.
- 林忠行「チェコスロヴァキア亡命政権の形成と政策：E. ベネシュの認識と行動を中心に」石井修編『1940 年代ヨーロッパの政治と冷戦』ミネルヴァ書房、1992 年、pp.113-158.
- 広瀬佳一『ヨーロッパ分断 1943：大国の思惑、小国の構想』中公新書、1994 年
- （福田宏『身体の国民化』北海道大学出版会、2006 年）
- A. ポロンスキ、羽場久渥子監訳『小独裁者たち：両大戦間期の東欧における民主主義体制の崩壊』法政大学出版局、1993 年
- 矢田部順二「チェコスロヴァキア国民委員会の成立 1938-39 年：亡命政治活動初期における E. ベネシュの苦悩」『修道法学』27 卷 1 号、2004 年、pp.213-240.
- ジャック・ル・リデー、田口晃・板橋拓己訳『中欧論』文庫クセジュ、2004 年
- ジョセフ・ロスチャイルド、大津留厚監訳『大戦間期の東欧』刀水書房、1994 年
- Saturnino M. Borrás Jr., Marc Edelman, Cristóbal Kay, “Transnational Agrarian Movements: Origins and Politics, Campaigns and Impact,” *Journal of Agrarian Change* 8:2/3 (2008), pp.169-204.
- George D. Jackson, Jr., *Comintern and Peasant in East Europe 1919-1930* (Columbia University Press, 1966).
- Dušan Kováč, “Milan Hodža: vom Belvederekreis zum Föderationsgedanken im Zweiten Weltkrieg,” In: Richard G. Plaschka, et al (eds.), *Mitteleuropa-konzeptionen in der Ersten Hälfte des 20. Jahrhunderts* (Wien: Verlag der Österreichischen Akademie der Wissenschaften, 1995), vol.1, pp.165-170.
- Jan Kuklík, Jan Němeček, *Hodža versus Beneš: Milan Hodža a slovenská otázka v zahraničním odboji za druhé světové války* (Praha: Karolinum, 1999).
- Milan Hodža, *Články, řeči, štúdie* (Praha/ Bratislava, 1930-34), 7 (6) vols. [著作・講演集]
- Pavol Lukáč, *Milan Hodža v zápase o budúcnosť strednej Európy v rokoch 1939-1944* (Bratislava: Veda, 2005). Edited by Štefan Šebesta.
- Vojtech Mastny, “The Historical Experience of Federalism in East Central Europe,” *InterMarium* 2:2 (1998), pp.1-24. <http://ece.columbia.edu/research/intermarium/intermarium-vol2.html>
- Miroslav Pekník (ed.), *Milan Hodža a integrácia strednej Európy* (Bratislava: Veda, 2006). 2005～07 年まで 3 回行われたホジャ・シンポジウム論文集の一冊